

**編集後記：**この編集後記は、2020年4月21日、立正大学熊谷キャンパスで執筆しています。例年通りであれば新入生を迎えてサークルの勧誘活動などでにぎやかになる時期ですが、キャンパスはひっそりと静まり返っています。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大学は5月末まで学生の立ち入りが禁止となっているからです。

人氣がなくなり、時が止まったようなキャンパスですが、自然はその歩みを時々刻々と進めています。2月末にはロウバイの黄色い花が甘い香りを漂わせ、3月に入るとモクレンが大輪の白い花を大きな木いっぱい咲かせました。それからほどなくしてシダレザクラが開花し、続いてキャンパス中のソメイヨシノが満開になりました。今はそのすべてが新緑の葉で覆われています。天気図も、すっかり移動性の気圧配置にな

りました。人の動きが止まっても、自然はあゆみを止めることはありません。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、気象学会2020年度春季大会が、予稿集の発行をもって大会開催となりました。Face-to-faceの研究議論の場が限られてしまうのは、寂しい限りです。私もゼミ生とオンライン会議ツールで研究相談を進めていますが、やはり、対面での議論の方が分かりやすいし、新しい発見をしたときの感動も一段と増すように感じます。1日も早く感染が収束し、心置きなく研究とお天気談議ができるよう、切に祈るばかりです。そのためは、人との接触を最大限減らすこと。学会員の皆様におかれましては、どうぞお元気でお過ごしください。Stay at homeのおともに、「天気」をぜひ、

(鈴木パーカー明日香)